

地域と学校

千秀小学校からの報告

長井 梢

- 一——はじめに
- 二——千秀小学校の概要
- 三——地域や学校を結ぶ行事や活動
- 四——おわりに

一——はじめに

昔の学校は、わが村のわが町の学校ということでみんなが親しんだものである。祖父母や父母、そして兄や姉も同じ学校を卒業し、共に育った校舎や運動場をなつかしむ気持ちで母校を愛する心になつてくるのである。

千秀小学校は、そういう雰囲気を伝統的に受け継いでいる学校であり、それを守ろうとしているのである。

これから、世の中がどのように変わろうとも子どもの教育は学校、家庭、それを包む地域が手を携えていかなければなら

らないと思うのである。

また、最近是非行問題が大きな社会問題になつているが、それも、学校、家庭、地域が一体となつて取り組めば小さな芽のうちに対処することができるとはな

いだろうか。これらも含み、すこやかに心豊かな子どもの育成をねらいとして本校では、地域とともに歩む学校としていくつかの特色ある行事を行っている。

以下、本校の地域、学校、行事について簡単に紹介してみたい。

二——千秀小学校の概要

①本校の沿革

本校は、明治九年十一月十五日、鎌倉郡公立千秀学校として田谷村字谷戸一、六七六番地に創立、田谷・小雀・金井・長尾台・飯島・長沼の六カ村の共有物であった。

「千秀」という校名の出典は判然としない。大字典によれば「秀」という文字は、樹が実ったさまを表わし、花は美しくないが、実がばっちり実った姿をいうとあり、教育の理想として有為の人材を養成する場としての願望をこめて校名としたものと思われる。

明治二十三年に鎌倉郡長尾村立尋常小

②地域の様子

学校と改称、大正五年四月一日豊田小学校田谷分教場となつた。一年生から三年生まで一学級で、四年生からは豊田小学校まで歩いて通つた。昭和二十三年には同小田谷分校と改称、そして昭和四十一年四月再び千秀小学校として独立、教職員八人、児童百数十人で出発した。

昭和四十六年九月向い側の山をくずし鉄筋の新校舎へ移転し、地域をあげての望みがかつたのである。現在、創立百七周年を数え一七学級五八〇人余の児童が通学している。

大船駅からバスで十分という便利な地でありながら市街化区域からはずされ緑地がそのまま残り、四季の眺めも美しいところである。常勝寺・定泉寺・玉泉寺・御霊社・九つ井・長尾城址・旧鎌倉道などの史跡のまわりに山やたんぼが点在し、古い住宅が多く、人口の割には、広い学区を有している。

学区の中には、住友電工、日本光学などの工場もあるが、おちついた環境を保ち、昔ながらの「村の学校」という気風が学校教育を支え、PTAと共に地域ぐみの協力関係にあり、恵まれた教育環境にある。

③—父母の実態

古くから本校の学区に住んでいる家庭が多く、二世帯、三世帯が同居しているとか、核家族でも敷地内に祖父母や親族が住んでいる場合が多く、連帯感もあり、暖かい雰囲気を持っている。

以下五十七年度に行った意識調査でみると次のようである(調査対象 一年、六年の父母。約四三〇人。調査方法 質問紙法/調査時期 昭和五十七年十一月)。

小学校教育について特に力を入れて欲しいもの(図—1)については、「人格を高めることを中心」が全体として約半数を占めている。次いで、体力づくり、

学力となっている。

本校児童に強く指導してほしいこと(図—2)は、三つ選択であったためかばらつきが多くみられたが、主なものをみると次の通りである。

①自分のやるべきことは責任をもって果たす。

②物事を最後までやり通す。

③わがままをしないで他人の立場を考慮する。

③身のまわりの人に尊敬や感謝の気持ちをもつ。

③決められたこと約束したことをきちんと守る。

①②にあげられている項目は、昭和五十一年に同じ調査項目で調査した結果とまったく同じである。このことから、千秀小の父母は責任感、粘り強い態度の育成を望んでいることがわかる。

親の教育方針(図—3)では、一年から六年まで、およそ半数以上が努力する意欲をつけるようにし、あとは本人にまかせると答えている。親は、子どもの能力を引き出し、それを伸ばすために自分自身いっしょけんめい努力しようとする意欲を育てるのに力を貸してやりたい。そして、意欲が持続できるよう励まし、身に付けばあとは本人の自由意志にまかせると。能力に応じてのびのびと育てたいと考えていることが推察される。

子どもに持たせたい性格(図—4)として親が望む性格としては次のようである。

④友人との遊びや仲間づくりの中の思いやり

⑤明るく生活できる協調性

⑥新しいものを生み出そうとする創意工夫の力

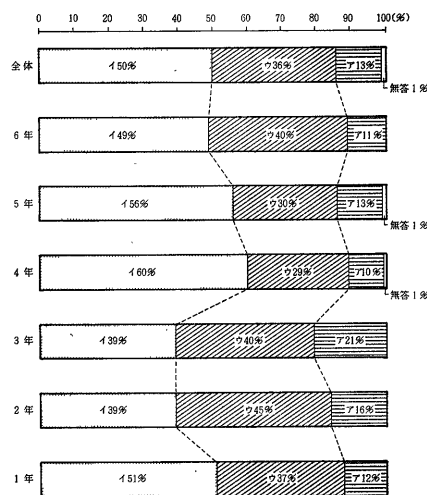
③最後までやり通す根性

②相手の立場を理解できる寛容性

③社会の一員としての役割を自覚した行

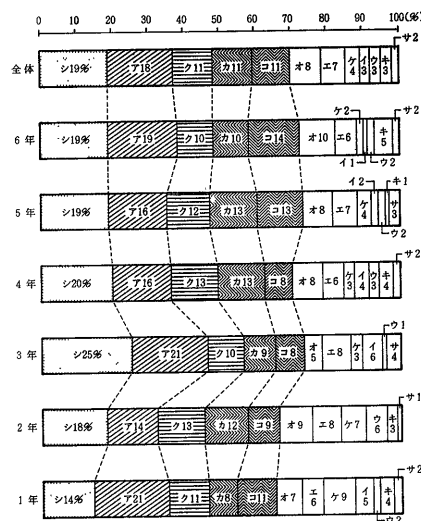
夫の力

図—1 小学校教育について力を入れてほしいもの



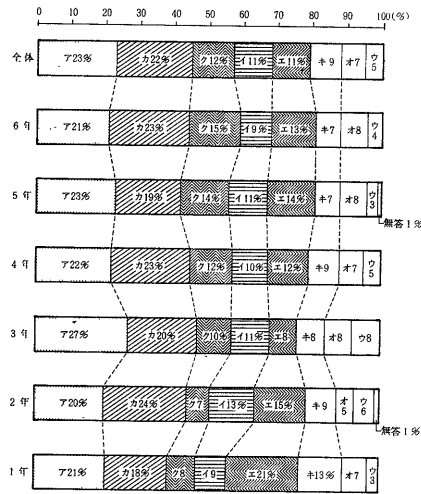
ア 学力を中心とする教育
イ 人格を高めることを中心とする教育
ウ 体力づくりを中心とする教育

図—2 強く指導してほしいこと



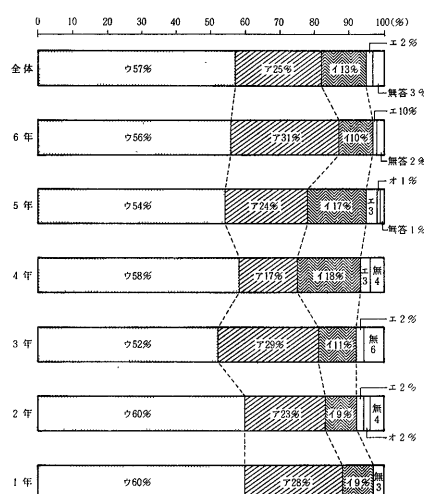
ア 物事を最後までやり通す
イ 物や金銭をだいに使う
ウ ことばづかいをよくする
エ 自分から物事を進んでやる
オ 目上の人や、よその人に礼儀作法を正しくする
カ 身のまわりの人に尊敬や感謝の気持ちをもつ
キ 身のまわりの整理や整とんをよくする
ク わがままをしないで他人の立場を考慮する
ケ 物事をするときよく考えおちついてする
コ 決められたこと約束したことをきちんと守る
サ ほねおしめないで仕事をする
シ 自分のやるべきことは責任をもって果たす
ス その他

図-4 子どもに持たせたい性格



- ア 最後までやりとおす根性
- イ 友人との遊びや仲間づくりの中での思いやり
- ウ 負けてたまるかという闘争心
- エ 明るく生活できる協調性
- オ 正しい事をやりとげる正義感
- カ 相手の立場を理解できる寛容性
- キ 新しいものを生み出そうとする創意工夫
- ク 社会の一員としての役割を自覚した行動力
- ケ その他

図-3 親の教育方針



- ア あせらず子どもの自由にまかせ、子どもの力に応じてのびのびと育てたい
- イ ある程度の学力がないと困るので、なんとかして必要な学力がつかないように育てたい
- ウ 一定以上の学力は、自分自身の努力がつかないでつかないので、その努力する意欲をつけるようにし、あとは本人にまかせる
- エ 成人までは、親の責任下にあるので親が望む方向で育てていく
- オ その他(ご意見を下の欄にお書きください)

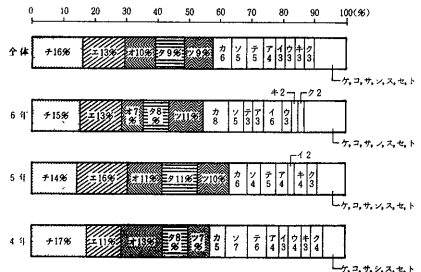
このことは親から見た子どもの短所にあげられている「忍耐力の不足」や強く指導してほしいことに表われている「物を最後までやり通す」と関連している。

また、一年生に「明るく生活できる協

調性」が二一%と大きい比率を示しているのは、小学校生活を初めて経験するの、集団生活の仕方など、低学年の時期に身に付けさせたいと望んでいるのではないだろうか。

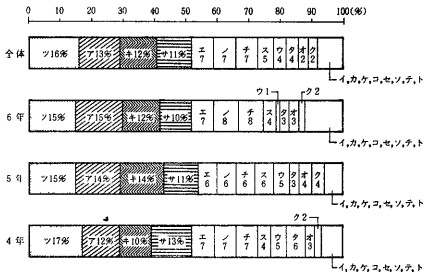
ここに掲げた調査は、父母の実態のほ

図-6 自分の性格のよくないところ



- ア がまんできない
- イ 物をそまつにする
- ウ 自分かたである
- エ テレビをみすぎる
- オ ことばづかいが悪い
- カ 進んで物事をしない
- キ 金づかいがあらう
- ク すなおさがない
- ケ 礼儀作法に欠ける
- コ 感謝の気持ちがうすい
- サ 尊敬心がない
- シ いたわりの心がたりない
- ス 生活をもっとよくしようと思わない
- セ いじわるである
- ソ 勉強しない
- タ せりせいとんができない
- チ そそっかしい
- ツ 人の前で、はっきりと話せない
- テ すぐはらを立てたりわめいたりする
- ト やくそくを守らない
- ナ その他

図-5 自分の性格のよいところ



- ア いつも明るくほがらかである
- イ すなおである
- ウ 思ったことをはっきり言う
- エ 家の手伝いをよくする
- オ 責任感が強い
- カ はきはきしている
- キ だれとでも仲良く遊べる
- ク 物事のよしあしを判断する力がある
- ケ よく勉強する
- コ 積極的である
- サ 物やお金をたいせつにする
- シ 思いやりがある
- ス がまん強い
- セ 友だち、親、きょうだいに迷惑をかけない
- ソ 友だち、親、きょうだいにたよらない
- タ よく努力する
- チ 約束を守る
- ツ 近所の人、お客さんにあいさつができる
- テ ことばづかいがよい
- ト 時間のけじめをつける
- ナ その他

んの一部をのぞきみるにすぎないが、まとめてみると次のように考えることができる。

本校の父母は、学校教育や子どもの教育について、あたたかい目を持って見守

おり、さらにより良くという方向もたいへん常識的である。また、本校の教育に ついても、認め、支え大きな信頼を寄せ てくれていることがわかる。

④ 児童の特性

児童は、自然環境に恵まれ、古い伝統のある本校を誇りとして学校生活にも学習にも取り組み、教師にも信頼の念が厚い。

全体の傾向としては、友だちをいたわり、家族にも迷惑をかけないように心がけ、親や教師のいうことはよく聞こうという姿勢がみられ、温順、明朗である。

その反面、親や教師に頼る面もあり、積極的に行動していいこうという態度がやや不足している。

また、体力面からみると病気やけがも少なく、体格はやや小さいが、山砂の運動場で春から秋まで素足で体育をするなど、健康で、サッカー・バスケット・なわとび・水泳等のスポーツを好み、得意である。

父母調査と同じ時期に実施した調査でもこれらの特性は、はっきり表われている。

以下いくつかの調査を例に児童の意識をさぐってみる。

自分の性格のよいところ(図-5)については、四～六年生まで同じような割合を示している。主なものをあげると次のようである。

- ① 近所の人、お客さんにあいさつができる。
- ② いつも明るくほがらかである。
- ③ だれとでも仲良く遊べる。

千秀小学校のよいところ

主なものを学年別にまとめてみると次のようである。

- [4年]
- ・自然に囲まれ生き物も多い
 - ・運動がさかんである
 - ・はだして体育をする
 - ・きょうだい活動がある
 - ・仲がよくみんなで協力している
- [5年]
- ・緑が多く環境がよい
 - ・スポーツがさかんである
 - ・きょうだい活動があり、みんな仲がよい
 - ・先生がわかるまで勉強を教えてくれる
- [6年]
- ・緑に囲まれ、自然がたくさん残っている
 - ・スポーツがさかんである
 - ・きょうだい活動がある
 - ・学校内外がごみがなくきれい
- 先生がやさしく教えてくれる
- 運動場が広い
- 行事がたくさんある
- 長い伝統がある
- スタンドがある
- はだして体育をする
- 行事がたくさんある
- 先生に恵まれている
- みんな元気で明るい
- あいさつがよくできる

- ④ 物やお金を大切にします。
 - ⑤ 家の手伝いをよくする。
 - ⑥ 思いやりがある。
- 全体に明るく思いやりのある性格といえる。
- 自分の性格でよくないところ(図-6)について主なものをあげると次のようである。
- ① そそっかしい。
 - ② テレビを見すぎる。
 - ③ ことばづかいが悪い。
 - ④ 整理整頓ができない。
 - ⑤ 人の前ではっきり話せない。
 - ⑥ 進んで物事をしない。

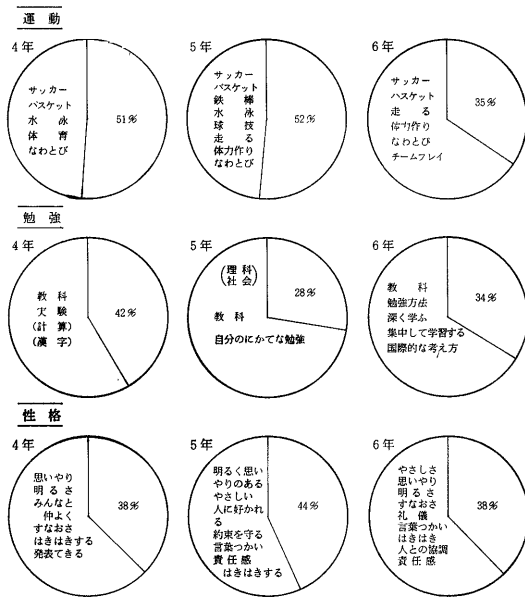
- ⑦ 勉強をしない。
- これは、同じ項目での父母調査と比較してみると、主なものについては、ほとんど同じであるが、親が二位にあげている「忍耐力の不足」が子どもでは九位になっているのは意識の違いが感じられる。
- また、現代生活の中でのテレビの影響も大きく、親子共に「テレビを見すぎる」ことをよくない面としてとらえていることがわかる。「言葉づかい」については、学校生活や、家庭生活の中で気を付けていることにもあげられ、正しい美しい言葉に関心をもっている。

四年生から六年生まで、ほとんどの児童が自然環境に恵まれ古い伝統のある千秀小学校に学ぶことを誇りとしている。そして、スポーツが盛んであること、きょうだい活動や種々の行事に参加することも喜んでいる。きょうだい活動の成果が全校が仲良く協力し合っていることも長所としている。

また、これらの活動や行事を指導し、日常の学習をわかるまで教えてくれる教師の姿勢にも良さを感じていることがわかる。

千秀小で一番学びたいこと(図-7)として、運動面ではほとんどの子どもが

図-7 一番学びたいこと



右側の%の内訳は、左側の項目

サッカー、バスケット、水泳、なわとびなど本校の特徴あるスポーツに集中している。勉強面では、教科が中心となっているが、六年生に、勉強法、国際的な考えなど成長した視野の広い回答が出されている。性格面についても、本校の子どもの特徴である明るさ、思いやり、すなおさを伸ばしたいという考えと、発表力をつけ明確な態度を身に付けたいと望んでいる。

三——地域や学校を結ぶ行事や活動

本校では、特色ある行事として次のような行事や活動を行い、学校、父母、地域が一体となって取り組んでいる。

①きょうだい活動

創意ある教育活動のうち月に一時間を全校たてわりの集団による活動とし、「きょうだい活動」と呼んでいる。

⑦ねらい

・たてわりによる集団活動を通じて、集団の一員としての自覚を深め、自主、協力、責任、信頼、友情、規律などの望ましい態度を養い、学校生活を楽しみ、味わいながら人間関係の深まりを育てる。
・集団での話し合い方、遊び方、活動の仕方を知る。

・力を合わせると仲よしになれることを知る。

⑧組織

各学年を赤、白、青の三つに分け、一つのクラスに必ず一年から六年までの男女が入り、同数で等質に編成している。

⑨主な活動

- (ア)毎週金曜日、昼休みを「きょうだいの休み時間」としてたてわりで遊んでいる。
- (イ)小運動会の応援
- (ウ)七夕集会
- (エ)きょうだい遠足

全校で秋の一日、鎌倉の由比ヶ浜海岸へ行って、きょうだい学級で「山や川・湖のある町」をテーマに砂の造形活動を行う(写真—1)。

- ・ねらい
- ・きょうだいのクラス全員が力を合わせ、砂の造形を楽しむ。
- ・リーダーの指示に従い、楽しく安全に過ごす。
- ・他のクラスの作品を十分に鑑賞する

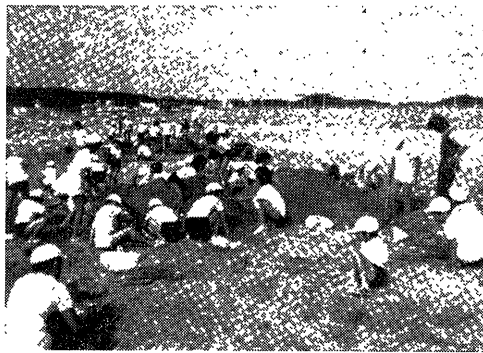
(ウ)千秀親子まつりでの発表

「力を合わせて」をテーマに布やビニールを使った表現。
「白組」のきょうだいの発表。小さい子は小さいビニールを持っている(写真—2)。

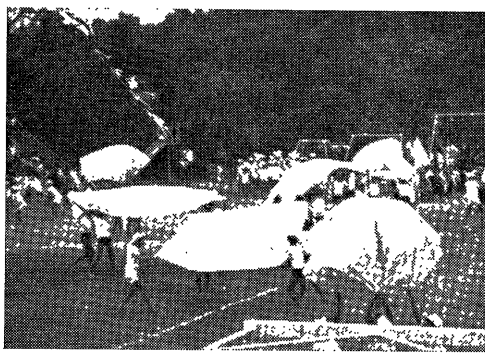
青組は、六年はテープ、五年・四年なわとび、三年が輪、二年が棒、一年がボ

ールで「秋風によって」の曲に合わせて動く。

写真—1 きょうだい遠足



写真—2 千秀親子まつり「白組」



赤組は、「のびゆく千秀っ子」をテーマに組体操を発表した。
(ウ)オリエンテーリング
(エ)正月の遊びを楽しもう
(イ)きょうだい学級の六年生へのプレゼントづくり

その他日常にもいろいろな活動が随時行われている。このきょうだい学級はたいへん仲が良く、六年生は修学旅行で自分のきょうだいだけでなく、きょうだい学級の小さい子におみやげを買ってくるほどである。

②千秀親子まつり

昭和五十三年から学校、PTA、地域とが一体となって始められた行事で、最初は親子運動会が中心となった内容であった。その後創意ある教育活動としての「きょうだい活動」の発表も加えられ、現在のような「千秀親子まつり」となったのである。毎年、十月最終日曜日に「この町で、この学校で、大きく豊かにのびよう」をテーマに、次のようなめあてを掲げて行っている。

①児童、父母、教師及び学校、PTA、地域が協力し合って楽しい一日をつくり出す。

②相互の親睦と理解を深めるとともに、郷土や町や学校への愛情と協力的態度を育てる。

保護者 殿

さわやかな秋をむかえ、皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて本校では恒例の千秀親子まつりを来る10月23日(日)に開催いたします。つきましては、ぜひご来臨くださいますようご案内申し上げます。

昭和58年10月15日
 横浜市立千秀小学校校長 長谷川 静 男
 P.T.A会長 浦島千穂子

プログラム

- 1 開会のことば
 2 優勝杯返還
 3 P.T.A会長あいさつ
 4 学校長あいさつ
 5 来賓あいさつ
 6 競技上の注意

開会式
 (午前3時30分)

演 技

順	種 目	学年	競技人数
1	ラジオ体操	全	
2	応援合戦	全	
3	ジャンプリレー	3	児童36親18
4	かえるの親子	2	# 35 # 18
5	おんぶ競走	1	# 36 # 18
6	障害物競走	5	# 31 # 16
きょうだいパートⅠ			
7	力を合わせて		白の1.2.3.4.5.6
8	綱引き	4	児童35親18
9	おきかえ競走	2	# 35 # 18
10	タイヤころがし	1	# 36 # 18
11	大球運び	来賓・職員	約50

きょうだいパートⅡ			
12	秋風にのって	6	青の1.2.3.4.5.6 児童38親19
13	宅急便	3	# 36 # 18
14	ボール運びリレー	6	# 35 # 18
15	ブルドーター	4	# 35 # 18
16	P.T.A.フォークダンス	P.T.A	実行委員・希望者

昼 食 ・ 休 け い (きょうだいであそぼう)

きょうだいパートⅢ			
17	のびゆく千秀っ子		赤の1.2.3.4.5.6
18	応援合戦	全	児童31親16
19	台風の目	5・6	# 38 # 19
20	P.T.A.委員会対抗リレー	P.T.A	
21	地区対抗リレー	女子	各5
22	地区対抗リレー	男子	各5
23	みんなでおどろう		全年代表1年~
24	この成長をありがとう		5年 各1名
25	愛する子どもたちへ	P	
26	ささやかなおくりもの	T	
27	はばたき……決意をこめて		6年代表1名

- 閉 会 式
- 1 成績発表
 - 2 優勝杯授受・参加賞授与
 - 3 P.T.A会長あいさつ
 - 4 学校長あいさつ
 - 5 閉会のことば

写真-4 親子で運ぶ「宅急便」

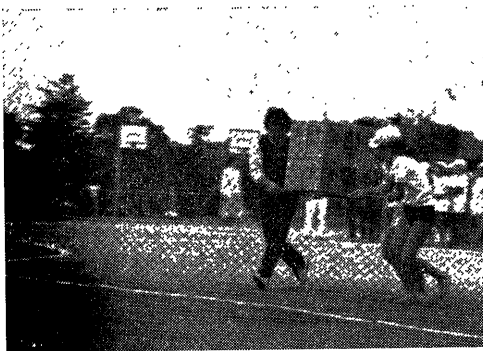
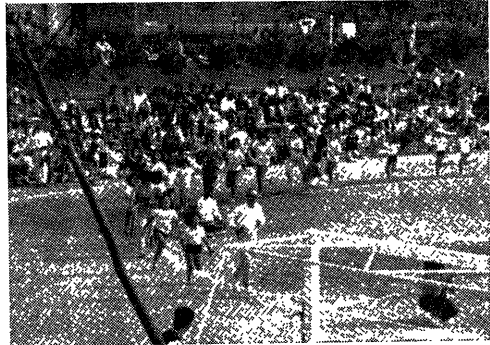


写真-3 地区別リレー後 町内会長先頭に一周



親子まつりの準備には、P.T.A、教師、高学年児童、地域の体育指導委員の手に

写真-5 “この成長をありがとう”



よって行われ、当日の各係も交通指導員の登校時の交通整理から、各町内会長を始め多くの人々の協力によって進められる。

朝早くから孫の活躍を楽しみに席をとお年寄りの姿も見られ、親子の競争で子どもよりはりきる父親の背中に、声からして夢中になって応援する母親など活気溢れるものである。

また、地区別の対抗リレーでは、スタートを切る町内会長からバトンを受けて走るかわいい一年生、そして我を忘れて必死に走るおかあさん、子どもに負けまいとしながらゆずっているおとうさんなど、運動場の歓声が地域に響きわたるの



ものがあさん方による種々の出店は賑わい、四町内の子どもたちによる出し物が次々と発表される。おみこしあり、仮装あり、楽しいものである。そして、この地域の特性を表わす、「ぼくとわたしのおじいさん、おばあさん」が発表され、嬉しそうなお年寄りの顔が忘れられない。

日が暮れかかると、体育指導委員、青少年指導員の方々による花火が打ち上げ

昭和58年度	
千秀まつり	
日時：8月27日(土)午後3時より	
雨天の場合 8月28日(日)	
場所：千秀小学校校庭	
～プログラム～	
3:00	開会式
3:15	出店
4:15	子供会の出し物
4:40	ぼくとわたしのおじいさん、おばあさん
5:15	ゲーム
5:45	盆踊り、フォークダンス、花火
6:15	野外映画
6:45	閉会式
6:50	



千秀小 P.T.A

よう地域の人々や会員、児童の親睦を深め、また楽しいひとときを過ごす」に引き、次のようなプログラムで行っている。

おかあさん方による種々の出店は賑わい、四町内の子どもたちによる出し物が次々と発表される。おみこしあり、仮装あり、楽しい

である。

そして「きょうだい学級」の発表が「白」「青」「赤」と一年生から六年まで創造性に富んだ発表が行われる。

最後には「この成長をありがとう」で作文や歌が披露される。このセレモニーが感動的で涙を浮かべる人もいる。

おとうさんへ(一年生代表)、おかあさんへ(二年生代表)、学校へ(三年生代表)、地域へ(四年生代表)、子どもたちへ(父母、広報委員)、まわりの人々へ(五年生代表)、決意をこめて(六年生代表)、一粒の種(先生方の成長を願う歌)が発表される。

子どもたちに夏休みの共通した楽しい思い出を残したいという気持ちから、毎年夏休みの最後の日曜日に、P.T.A.が中心に学校、地域が協力して昭和五十四年から行っている。

目的は、「夏休み最後の思い出となる

子どもたちに夏休みの共通した楽しい思い出を残したいという気持ちから、毎年夏休みの最後の日曜日に、P.T.A.が中心に学校、地域が協力して昭和五十四年から行っている。

目的は、「夏休み最後の思い出となる

られ、いよいよ盛り上がりつつある。

最後は、先生方の手による「野外映画」が催され、子どもたちは感動と十分な満足感をもって家路につく。

④—米作りともちつき

五、六年生の実習を兼ねた学習として、稲の栽培が四十八年度から行われている。本校卒業生の地主さんから無償で水田を借り受け、田植え、稲刈り、脱穀と一貫した学習をしている。

そして、十一月にはもちつき大会を行い、収穫に感謝しながらつきたてのおもちに舌つづみをうっている。つき上がったおもちを食べながら、一時間でほんの少ししか耕やせないこと、草取り、刈り取りの苦勞などを話し合い、農家の人々のたいへんさが身にしみてわかったようである。

四—おわりに

千秀小学校は、古い歴史を持ち、あたたかい地域の人々に囲まれ美しい自然に恵まれていることが礎となって、数々の行事ができるのである。また、教師もいっしょうけんめいに日々の教育活動に励み、父母や地域、子どもとの間に信頼関係の絆がしっかりと結ばれていることも、それを裏付ける大切なことである。

地域と学校が一体となって行事を成功させ、新しい伝統となるよう継続させていくには、学校も地域もたいへんな努力と信頼の上に立った協力がなくてはできないのである。明るくのびのびと、そして何よりも澄んだひとみの美しい千秀の子どもたちの心に、数々の行事の思い出は、一生忘れることのできないものになることであらう。

⑤—千秀同窓会

本校の創立百周年を機会に、それまでの後援会「千秀会」を解散して、千秀小学校同窓会ができた。会員相互の親睦と母校の教育振興を図ることを目的に、分教場、分校、千秀小学校の卒業生と職員、地域の賛助会員で構成されている。

毎年春に総会を開くと、「私は、体が動く限り同窓会にはどんなことをしてもきますよ」というお年寄りから、ついに

本校は、子どもの教育に最もふさわしい環境に恵まれているが、本来教育はこ
りあるべきだと思うのである。

千秀小学校の地に住み、ここに学ぶこ
とを心から誇りと思い、大きく大きく心
豊かに育って欲しいと願うとともに、こ

の特色ある行事をいつまでも守り育てて
いかなくはならないと痛感したのであ
る。
△市立千秀小学校副校長▽